

「「勤労青年」のメディア史研究—その可能性を考える」

日 時：2017年5月13日（土） 14:30-16:30

会 場：立命館東京キャンパス 教室4

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー8階

<http://www.ritsumeit.ac.jp/tokyocampus/access/>

問題提起者：小林直毅（法政大学） 山本昭宏（神戸市外国語大学）

討 論 者：福間良明（立命館大学）

司 会：高井昌吏（東洋大学）

企画の意図：

昨今の雑誌研究は、従来の研究とは異なる読者層に光を当てている点に特徴があるが、こうした流れのなか、高度成長期の「学生」ではなく「勤労青年」たちに読まれた「人生雑誌」に関する研究が上梓された。福間良明氏の『「働く青年」と教養の戦後史：「人生雑誌」と読者のゆくえ』（筑摩書房、2017年）である。本研究会では、福間氏の研究を手がかりにして、「勤労青年のメディア史研究」の可能性を探りたい。

問題提起者には、水俣病と原発災害のメディア表象・言説に関する研究を進めてきた小林直毅氏と、核エネルギー言説に関する研究を進めてきた山本昭宏氏を迎える。両氏には、『「働く青年」と教養の戦後史：「人生雑誌」と読者のゆくえ』に対する書評コメントだけでなく、テレビやコミックや映画などの娯楽も含めた「勤労青年のメディア史研究」の展望を開いていただく。

その後、著者である福間氏からの応答を通して、『葦』や『人生手帖』が主題化した「生き方」の歴史的意義とその変容について議論したい。働きながらより良い「生き方」を目指し「教養」を求めた人びとの実存と、人びとをそのように主体化したメディアの役割、そして両者の背景にある社会変動。それらを整理し共有することで、戦後日本における読者集団へのアプローチ方法や、メディア史研究の今後についても、話し合うことができればと考えている。